

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	三井不動産ロジスティクスパーク堺	階数	地上5F
建設地	大阪府堺市	構造	S造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	800 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年9月 予定	評価の実施日	2013年7月19日
敷地面積	57,793 m ²	作成者	新日鉄住金エンジニアリング(株)
建築面積	27,422 m ²	確認日	
延床面積	133,091 m ²	確認者	新日鉄住金エンジニアリング(株)



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 2.0 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.5

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.8

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.2

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

3 設計上の配慮事項		
総合	多くのテナが入居する大型物流施設として、天井高さの確保や各階パースの配置といった倉庫としての機能効率性に優れ、耐久性の高い外壁材の採用など地球環境に配慮し、免震構造の採用や冠水対策、バックアップ電源の設置などBCP対策を行い、カフェテリア・売店など利用者への快適性にも配慮した施設を目指す。	
その他	0	
Q1 室内環境	用途が倉庫のため評価対象外	Q2 サービス性能
Q2 サービス性能	①外壁材料に補修期間の長い金属サッシを採用 ②汚水槽の貯留機能や発電機の設置などによりBCPに配慮 ③階高が高く、壁長さ比率が低く、床荷重が大きいことなど拡張性に配慮	Q3 室外環境(敷地内)
Q3 室外環境(敷地内)	①製鉄所の跡地である敷地から、金属性の外装を全面に押し出して景観に配慮 ②緑地面積の確保や中高木の配置、車路などの空地を確保することで敷地内温熱環境を向上	LR1 エネルギー
LR1 エネルギー	①高効率型照明器具を採用	LR2 資源・マテリアル
LR2 資源・マテリアル	①節水型衛生器具の採用など水資源の保護に配慮 ②主要躯体である鉄骨に高強度の材料を使用し、使用材料を低減 ③内装材と躯体との分離が容易にし、設備リフトを確実に確保し、リニューアル時の部材の解体が最低限になるよう配慮	LR3 敷地外環境
LR3 敷地外環境	①空調や給湯の熱源に燃焼器具は使用せず大気汚染防止を図る ②中高木による地表面被覆の確保、隣棟間距離による通風性の確保により温熱環境を改善 ③従業員駐車場や駐輪場の確保、車両出入口の配置などを配慮し、周辺の交通負荷抑制を図る	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



1. 建物概要	建物名称	三井不動産ロジスティクスパーク堺 新築工事	BEE	BEEランク
	建設地	堺市築港八幡町1番171	2	A
	主用途/延床面積	工場 / 133,090.76 m ²		

2. 重点項目への取組み

重点項目	評価点	取組み度
CO ₂ 削減	4	● ● ● ● ●
省エネ対策	4	● ● ● ● ●
みどり・ヒートアイランド対策	3	● ● ● ● ●
安全快適な暮らし	3	● ● ● ● ●

3. 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

CO ₂ 削減	評価項目		スコア	評価点
地球温暖化への配慮	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価値		3.6	4
省エネ対策	評価項目		スコア	評価点
外皮性能	CASBEE「Q1-2 2.1.3」のスコアによる評価値	建物全体	0.0	4
		住居・宿泊部分	0.0	
建物の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価値		0.0	
自然エネルギーの利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価値		3.0	
設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価値		5.0	
効率的運用(集合住宅は対象外)	CASBEE「LR1-4」のスコアによる評価値		3.0	
水資源保護	CASBEE「LR2-1」のスコアによる評価値		3.4	
みどり・ヒートアイランド対策	評価項目		スコア	評価点
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価値		3.0	3
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3.2」のスコアによる評価値		2.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2.2」のスコアによる評価値		3.0	
安全快適な暮らし	評価項目		スコア	評価点
バリアフリー計画	CASBEE「Q2-1 1.1.3」のスコアによる評価値		0.0	3
耐震・免震	CASBEE「Q2-2 2.1」のスコアによる評価値		3.4	
地域性への配慮、快適性の向上	CASBEE「Q3-3 3.1」のスコアによる評価値		2.0	
交通負荷抑制	CASBEE「LR3-2 2.3.3」のスコアによる評価値		5.0	

4. その他

技術の名称	考慮事項
免震構造、高降伏点鋼(BCHT400、NSYP345)の導入	免震構造を採用すると同時に、主要構造部に高降伏点鋼(BCHT400、NSYP3445)を導入することにより、建物全体の鋼重量を削減。
特に配慮した事項	